

「信じることと 聖書と照らすこと」

使徒 17 章

パナソニックの創始者である松下幸之助は、クリスチャンではありませんが、聖書の言葉を多く引用しました。「初めにことばよあれ」と言葉を発してから事業を始め成し遂げていきました。神の創世と同じようにしたのです。また、「どんなに悔いても過去は変わらない。どれほど心配したところで、未来はどうなるものでもない。いま、現在の最善を尽くすことである。」という言葉を残しました。自分の力ではなく神の摂理を信じれば、起きた出来事を感謝して受け取れます。慈しみと恵みが追ってくるのが分かるからです。主は私の羊飼いです。雇われた羊飼いは羊を見殺しにするが、イエスキリストである羊飼いは命懸けであなたを守りました。この十字架の恵みを知っている人は、どんな境遇の死の陰の谷を歩くことがあってもわざわざいをおそれません。そして、あなたへの神の計画は必ず良いものです。

■ 神の働き＝信じる道

信じるために HS (聖霊) の内的証明

ペレヤの町の人たちは、テサロニケにいる人たちよりも良い人たちで、パウロたちから非常に熱心にもことばを聞き、はたしてそのとおりにかどうかと毎日聖書を調べました。この良い人という意味は、素直にまっすぐ言葉を受け入れる人という意味です。そして受け入れた後、そのまま信じるのではなく、蛇のようにさごとくあれということ。調べることです。みなさんはコロナ感染症の日本の情報を調べないでそのまま信じていませんか。信じようとするために、調べてください。先入観があると正しく見るができないので、先入観を取り見極めてください。その為には過去をよく理解することが大切です。過去にとらわれている(過去の見方を間違っている)とそれを認めたくないの、「自分は大丈夫」とプライドで守ろうとします。立場の安定をはかる為に私たちは着なくてよい服を着てしまうような事をしてしまいます。そうではなく、過去はイエスキリストによって買い取られ赦されたことを信じて受け入れるならば、過去に感謝することができます。そのように自分自身を赦すことが出来た人は、神様が過去も用いて益としてくださいます。人は、相手の言っていることを見極める力があります。しかし、多くの方は裏切られた経験から、最初から疑ったうえで、その力を使います。ですから、過去を良く理解することが大切です。調べるのと考えるの違いは何でしょうか。疑いの目をもって、過去の情報と照らし合わせて考えてしまうと疑います。しかし調べると、正しいことや、自分がどうすべきかが分かります。情報を信じ、疑いながら自分を守るのは、うまくいきません。あなたの都合のよい過去の物事でしか判断しないからです。心の中で、あなたに何が語られようとしているかを感じてください。聖霊様は私たちを助けてくださいます。

■ 人の言葉に影響を受ける人

何も知らない者同士の人言葉に影響を受けなくてください。ナチス政権下の時代を生きたドイツ人のボンフェッファー牧師は、ヒトラーの思想や政策が非常に危険なものであると訴え続け、迫害を受けるユダヤ人を助けようとしてしました。そして反逆者として収容所に入れられ殺されました。神がいらないと思えるような状況の中、「人よ成人せよ」「神の前で、神と共に、神なしで生きる」と、それでも神を学び神を信じることを選びました。たとえ神の助けを感じずとも、神様はともにいてくださっていると信じたのです。神様を、自分の都合の良い存在としてではなく、すべてを支配しておられる創造主として信じ切ったのです。神様がいないような状況でも神様と共に生きることができるよう、備えていきましょう。

■ 知られない神 保険の人生

アテネもアレオパゴスの町も偶像でいっぱいでした。日本も八百万の神の偶像でいっぱい。ばちが当たらないようにという不安から、莫大な数の「知られない神」という偶像を人は造り、知らずに拜んでいます。何か起こった時のために保険をかけているのです。一定の距離を保ち、自分の都合の良いようにその神を用いています。

この世界とそこにあるすべてのものを造りになった神は、天地の主ですから、手でこしらえた宮などには住みません。神は人の手によって仕えられる必要はありません。神は、すべての人に、いのちと息と万物をお与えになった方だからです。私たちは、神の中に生き、動き、また存在しているのです。あなたは、神の中に自分が存在しているのか、それとも自分を中心に置き神を都合よく扱っているのかを学んでください。人は自分の中に神を置いて偶像を造ったのです。本当のあなたの存在を神から学んでください。

もし自分を中心にしてしまうと、何か問題が起こった時、すぐに倒れてしまい、神様との関係は崩れてしまいます。しかし、神を中心にしたこの世界の中で生かされているのです。だから、たとえどんな状況にあっても、この神様を信じて生きていくのです。なぜなら、私たちに与えられた十字架の救いは、この信じるということによって与えられているからです。決して救われたから信じたわけではありません。信じたから救われたのです。揺るがない神との1対1の関係を築いてください。人は揺るぐからです。

■ 神は信じさせることで救う 救いは信じる橋 (十字架)

マリアは未婚であり、男の人を知らずでしたが、受胎告知を受けたとき「どうかこの身になりますように」と信じ、イエス様をみごもりました。ナアマン將軍は死に至るような重い皮膚病を患っていましたが、預言者にヨルダン川に7度身を浸すように言われ、信じて癒されました。初めはプライドが邪魔をしやめようとしてしましたが、しもべの命がけの説得に耳を傾け、ヨルダン (世俗・肉という意味) 川に入りました。肉に死に、神に生きたのです。このように神様は助け手・友も与えてくださり、信じることでできるように決断を助けてくださいます。神様は信じさせることで救いの計画を用意しました。神様が求めることは神様の言われたことを信じて行うことです。

■ 神様との信頼関係＝礼拝 神様は良いお方

信じるなら、あなたが願ったことを超える神の栄光が表されます。神は良いお方です。信じましょう。信じるために、聖書を学んでください。信じられないから学んでください。学び調べた結果、アレオパゴスの町の多くの人が信じた、と書かれています。

私たちは神の子孫ですから、神を人間の造った偶像と同じものと考えてはいけません。神はそのような無知の時代を見過ごしておられましたが、今は悔い改めを命じておられます。神は、私たちがイエスキリストの十字架、復活を信じることによって確証をすべての人に与えられたのです。

『神は、そのような無知の時代を見過ごしておられましたが、今は、どこでもすべての人に悔い改めを命じておられます。なぜなら、神は、お立てになったひとりの人により義をもってこの世界をさばくため、目を決めておられるからです。そして、その方を死者の中からよみがえらせることによって、このことの確証をすべての人にお与えになったのです。』(使徒 17:30～31)

さいごに

何か問題があるのなら、それは神を求めさせるためであり、神を探り求めるなら、神を見出すこともあるのです。感謝し、神様に会い、神に解決していただきましょう。「もし神がいるなら、こうしてください」という生き方ではなく、神がいることを信じる決断をして生きてください。揺るがない神との1対1の関係を私たちが信じるなら強固に築くことができます。

(要約者:高橋奈津江)

(2020年9月13日)